

レジュメ②子どもの心と体の健康 アレルギー/環境に焦点を当てて

2023.5.13阪南医療生協診療所所長 眞鍋 穰

(まなべ ゆたか、大阪健康福祉短期大学学長、阪南生協診療所所長)

はじめに 子どもたちの今は社会を映す鏡です。子どもたちのからだと心の問題はまたおとなの抱えている問題の反映であるとの視点が大切です。戦争の中で子どもが幸せでいられることも、おとなが追い詰められ切羽詰まって子どもだけが本当に幸せでいられることもありません。しかし また 一見人ごとのように見える環境問題が子どもの体を蝕んで行くのを診療現場で実感してきました。小児科医になって46年になります。子どもの日常生活に潜むところとからだの問題を小児科医の立場からお話しします。

1)子どもの体の変化 おかしさ 保育所で実感していること 日本体育大学の調査(保育所) 文科省の調査

自律神経のバランスの乱れ 体力の偏り 骨折の増加(転んだだけで骨折)

診察室で見えること

-子どもを取り巻く社会環境の変化と政治経済-

環境汚染=大気汚染、食品添加剤、残留農薬、黄砂、PM2.5 が子どもの体を蝕む

エコチル調査

Pm2.5のひどい日には、喘息とアレルギー症状が誘発される

(今まで子どもの気管支喘息の初発は、感染症による誘発が多くかぜを引いた時に、夜間の咳き込み喘鳴で発症していたが、最近は晴れた日に保育所の園庭で遊んでいてゼーゼーいい出す、喘息発作は夜にしやすいという常識がひっくりかえられる)

肥満児の増加 2型糖尿病の増加 ソフトドリンクケトース(スポーツドリンクの飲み過ぎで極端な高血糖になって受診する)

アレルギーの増加 保育所でのアトピー性皮膚炎の増加・食物アレルギーの増加(残留農薬食品添加剤とアトピー性皮膚炎増加の関係(TPPと食の安全)

診察室でゲーム機を離せない、じっとできない子どもたち(椅子を回す 血圧計のカフを膨らませ パソコンのキーボードを一通り押す小学3年生)

学習障害、アスペルガー 注意欠陥多動性障害 広汎性発達障害の診断の増加

(環境汚染との関係は?)

生活リズム 遊びの変化(放課後に体を動かさず、塾とゲーム) 学童保育の約割は大きい

起立性調節障害(あさ起きれない 頭痛と立ちくらみ)

乳幼児期のTV視聴時間と発達の遅れの関係の報告

食生活 朝ご飯を食べていない子ども(低血糖、低中性脂肪)

日本のこどもの睡眠時間 おとなの睡眠時間 世界最低水準

労働実態-親の勤務状況の変化-夕食、朝食を一人で食べる

働きながら子育てすることをサポートするシステムの改悪

保育システム 教育システム

2)子どものころ いじめの実態

3)子どもを取り巻く親の生活環境の変化 子どもの貧困の進行

医療 教育を受けられない 子どもは生まれる環境を選べない

小児虐待の増加 若年出産の増加

30年前に初めて経験した小児虐待死の事例

診察室の外で

福島原発事故と子どもの体 放射能汚染 避難者健診を取り組んで

避難する人 残る人 どちらも被害者

4)厚生労働白書 子ども白書

5)日本の外で

湾岸戦争の後で イラクで7倍に増加した奇形と白血病など(劣化ウラン弾による放射能
アフガニスタンの子どもたち

核戦争防止国際医師会議「核兵器の人的影響に関する国際会議」

6)今求められていること 憲法を实践すること

安心して働ける労働環境 朝ごはん 晩ご飯を家族一緒に食べられることが当たり前
睡眠時間

病気になっても心配ない医療福祉

子どもが放課後に体を動かして遊べる教育環境

そして戦争のない平和な世界

親に期待したいこと

#追加

コロナ対策をどう考えるかについて

広島長崎原爆医療訴訟の証人になって学んだこと 事実に基づく医療 情報操作

